

# 事業所における自己評価結果(公表)

公表日:2024年3月22日

事業所名:Core More Class 東浦和

		チェック項目	はい	いいえ	課題や改善点すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	1	・個室がもう一部屋あると良い。 ・グループ活動と並行して個別支援を行う際には部屋が足りなくなる場合もある。	パーティション等で部屋を分割するなど、個別支援のスペース確保を工夫する。
	2	職員の配置数は適切である	6		・日によって偏る時がある。	日毎の利用予定人数に応じ適正に調整する。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	1	・入口の階段をスロープ化できると良い。 ・玄関の階段、マットなどの構造化はもう少し工夫ができると思う。	必要に応じ玄関階段に設置可能な可動式スロープの導入を検討する。また、靴を脱ぐ場所が視覚的にわかりやすくなるよう工夫する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6		・年齢と人数によっては机が狭く、机上の活動時スペースに余裕がないことがある。	状況に応じ個別支援用の机を合同活動にも活用する。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6		・更に分かりやすく、簡単にまとめる必要があると思う。	簡潔かつ明確になるよう改善を重ねる。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	2		今後実施を検討する。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		・限られている時間で研修を受けている。一日研修日を設けてもいい。 ・業務負担などもあり、昨年度よりも減っているように感じる。今後、少しずつ増やしていけるとより質の高い支援はできそうだが、	事業所内研修の機会確保に加え、外部研修等も活用し各職員が自己研鑽に努める。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6			
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6			ツールの変更は随時検討していく。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6		・合同支援に関してはクリアしていると思う。個別支援ではニーズから離れた部分も行っているように感じる。	個別支援計画に基づいた支援を提供すべく、児童発達支援管理責任者がそのつと支援内容を確認する。また、支援においてはニーズに対し意図して間接的手段を選択する場合もあるため、他職員の支援内容に疑問を感じた職員は当該職員に直接質問するなどし、目的の確認および共有を図る。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6		・合同の職員が基本作っている。	合同支援、個別支援ともそれぞれ担当職員が活動プログラムを立案している。今後は各担当間で相互に提案できると良い。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		・ねらいを持って継続している課題もあり、毎回違うものにはできていない。どこか一部を変更したりなどはしている。 ・同じ活動でもグループによってプランを変えたり、あえて続けて行ったりなど都度検討し、行うようにしています。	発達支援においては「一貫性」と「継続性」が重要である一方、それらが「固定化」につながらないように十分に注意する。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6			
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6				

	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6		・限られた時間なので難しさはあるが、お互いの考えや意見のすりあわせがまだ十分でないように感じる。	日々の打ち合わせで共有が不十分な場合は、各自が積極的に記録を残し回覧するなどして補足する。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6			
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6			
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	1	・相談事業所より会議参加要請を受けていない。 ・今年度は機会がありませんでしたが、機会があれば参加してまいります。 ・概ねできているように思うが、全利用者にてできているかはわからない。	相談事業所とはモニタリング時に電話で情報共有している。セルフプラン対象者については、担当者会議に代わるモニタリングと個別支援計画作成会議を実施している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	1	・勉強不足で『母子保健』『子ども・子育て支援』がよくわかっていません。	機会があれば積極的に連携を図っていきたい。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				現在まで該当児の利用なし。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				現在まで該当児の利用なし。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	1	・一部の利用者様に関しては行っている。 ・今年度は機会がありませんでしたが、機会があれば参加してまいります。	移行にともなう退所の場合は、移行支援に関する説明をあらためて保護者に行い、意向に応じて対応する。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		・昨年は書面で共有しているが、先方に伝わっているかは不明。 ・関係機関連携として行いました。	移行先に対しては事前に電話で連絡調整・相談援助等を行なった上で、支援内容やモニタリング結果を記載した文書を送付し記録に残している。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6		・今は機会が少ないと思うので、増やしていきたい。 ・関係機関連携として行いました。 ・個々人で行っている事は多いかもしれないが、事業所としては共有できていないと思う。	一部の児童発達支援センターとは、電話や書面を通じ連携を取っている。また、各専門機関が開催する研修等の情報は全職員に周知しており、内容によっては公費研修の扱いとしている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		6	・事業所としては機会を設けていないと思う。 ・今後、機会があれば良いと思います。	事業所近辺の幼保施設等に周知を図るとともに、保護者の意向があれば交流の機会を提案していきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	5	・各関係機関と情報交換できる機会には積極的に参加している。 ・参加していないと思う。 今年度は機会がありませんでしたが、機会があれば参加したいと思っています。	現在、全国児童発達支援協議会に加盟している。今後は地域の関連団体とも交流していきたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6			
保護者への説明責任	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	4	・ペアトレーニングの揭示はしたが、実際に参加には至っていないと思う。事業所としてはしっかりと時間を設けるのは難しいと思う。	ペアレント・トレーニング等の家族支援プログラムについて専門的知見を持つ実施者の確保、養成につとめたい。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		・丁寧に説明をしているつもりですが、ご家族にどこまで伝わっているかはわからない。	契約時、保護者に説明をしている。また、保護者がいつでも閲覧できるよう事業所玄関に開架している。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6		・今後も面談やモニター見学の時間をなるべく取れるようにしていきたいです。	保護者が遠慮なく相談できるよう、各職員が良好な関係性の構築に務める。また、要望に応じ事業所内相談支援を提供する。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	5	・保護者同士の関りを促したりはしていません。	保護者会等発足の要望があれば援助する。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6			

等	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6			
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6		・意識はしている。	文書の管理徹底はもちろん、利用者や保護者との会話においてもプライバシー保護に充分留意する。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	4	・利用者様はクリスマスなどは参加してもらったが、その他、地域の方に関しては行えていない。	今年度は一部職員が地域の祭りに参加した。事業所行事への招待は安全面の観点から難しいかもしれないが、今後も地域に認知される事業所を目指したい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6		・保護者も参加する訓練も必要だと思う。 ・マニュアルは作成されているが、内容について職員間での更なる共有が必要と感じる(職場内研修でマニュアルに基づいた実践をする等)。 ・まだ試行段階、少しずつ形になってきていると思う。 ・防犯マニュアル作成中です。	各マニュアルはあらためて整備し全職員に周知する。また、保護者も閲覧できるよう事業所玄関に開架する。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		・実践的な訓練をする必要があると思う。 ・訓練の内容や年間計画について、定期的に見直し検討をするとよいのでは(現在の事業所に適しているか・必要なことは何か等)。	定期的に訓練を実施し、随時内容の見直しを計る。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	2	・飲み物を提供する際に、聞き取りをするなどして対応いたしました。	食事の提供はしておらず、飲料は原則利用者持参となっている。イベント等で事業所が飲料を提供する場合は事前に保護者からアレルギー有無の確認を取っている。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		・出された事例を回覧するだけでなく、それについて更に他の職員からの意見を反映できる場があるとよい。 ・口頭のみで共有している事項も少なくない。ヒヤリハットの基準に関しても曖昧なものが多く、職員間で認識の違いがあるように感じる。	ヒヤリハット報告は自身が直接的に関与した事例でなくとも積極的に挙げるよう全職員にあらためて通達する。また報告書は回覧時に各職員が改善策を自由記入できるものとなり、回覧後には必ず会議を開催するものとする。加えて、会議に参加できなかった職員は各自で議事録を確認するよう徹底する。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4	2		身体拘束適正化検討委員会の開催、研修訓練等を通じ【身体拘束に係る取扱要綱】の内容について全職員が理解を深める。また、契約時には利用者ならびに保護者に対し十分な説明を行なう。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。